

2026年度第2回研究会を開催 6月19日（金）



今年度の第2回研究会は、関西大学イノベーション創生センター2階 T-Space 205・206にて開催し、21名の方々にご出席いただきました。

開会にあたり、西村会長ならびに関西大学先端科学技術推進機構長の鶴田浩章先生よりご挨拶を頂戴いたしました。

本研究会では、今年度ご入会された株式会社アイ.エス.ティ様による事業紹介と、関西大学カーボンニュートラル研究センター長 上田正人教授によるご講演を実施いたしました。

株式会社アイ.エス.ティ様の事業紹介では、多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。また、上田正人教授のご講演では、参加者は熱心に聴講し、関心の高さがうかがえました。

初の試みとして、研究会に先立ち、関西大学 産学官連携コーディネーターによる「産学連携相談会」を開催いたしました。本企画を通じて、会員企業の皆様のさらなる発展に寄与できるよう、今後も継続して実施してまいります。

ぜひ積極的にご活用ください。



株式会社アイ.エス.ティ様 事業紹介

人事部 Director／米田 有紀氏

1983年に設立された株式会社アイ.エス.ティ様は、ガラスとフッ素樹脂の複合繊維で国内唯一の不燃認定を取得し、ケーブル火災事故防止用の不燃材料として当時の電信電話公社（現NTT）への採用を実現されました。続いて、レーザープリンター用のポリイミド定着技術により、世界のモノクロレーザープリンター市場で高いシェアを獲得されています。その後も、ポリイミドを軸にフィルム、繊維、コンポジットなどへと事業を展開されています。

「Make the impossible possible.」を理念に掲げ、全従業員の約1/3を占める研究開発者とともに、社名（Industrial Summit Technologyの頭文字I.S.T）どおり“技術を売る会社”として、航空宇宙、XR、次世代エネルギー、ロボティクス等への展開を推進されています。

説明の中では、「顧客の課題から出発し、世の中になかった材料を自ら設計・開発する」とのお話がありました。これを受け、会場からは「ポリイミドについて具体的に相談がしたい」との声が上がるなど、活発な質疑応答が行われました。



また、入会されたきっかけが「AIへの相談」であったというお話からは、インターネット上の情報発信の重要性を改めて実感するとともに、「どんなところへも積極的に飛び込んでいく」米田様の姿勢に感銘を受けました。新たにご入会いただいた企業様として、今後のさらなるご活躍が期待されます。

株式会社アイ.エス.ティ様のHPはこちら▶



すべての企業に『カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ』が必要な理由

カーボンニュートラル研究センター長 上田 正人 教授



第2回研究会では、関西大学 カーボンニュートラル研究センター長であり、化学生命工学部 教授の上田正人先生よりご講演をいただきました。上田先生は、「株式会社イノカ」や「一般社団法人ブルーネクサス・ヨロン」の経営にも携わり、サンゴ礁の育成を基盤とした環境保全事業を推進されるなど、研究と実社会の双方において活躍されています。

講演では、「カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を実質的に均衡させる考え方）」や「ネイチャーポジティブ（自然環境への負荷を減らすだけでなく、回復・再生を目指す考え方）」

といった概念について、企業活動との関わりや今後の取り組みの方向性を、具体例を交えながら分かりやすく解説いただきました。

主な内容としては、(1) カーボンニュートラルの基本概念、(2) 世界的な動向とその背景、(3) 企業にとってのメリット、(4) アカデミアとスタートアップの連携による最新の取組み、の4点が取り上げられました。

近年の動向としては、EUが導入した炭素国境調整メカニズム（CBAM：輸入品の製造過程で排出されたCO₂量に応じて課金する制度）や、Scope3（自社だけでなく、原材料調達や製品使用・廃棄までを含めたサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量）、さらにESG投資（環境・社会・ガバナンスといった非財務情報も考慮する投資手法）の重要性が高まっている点が紹介されました。これらは大企業に限らず中小企業にも影響が及び、すべての企業にとって避けて通れない経営課題となりつつあります。

また、TCFD（気候変動に関する情報開示の国際的枠組み）やTNFD（自然環境への影響や依存度の開示を促す国際的枠組み）の動きにも触れつつ、単に二酸化炭素を削減・固定するだけでなく、資源循環を重視するサーキュラーエコノミー（循環型経済）への転換が、今後のカーボンニュートラル実現において重要であることが示されました。

本講演は、基礎的な概念から最新動向までが体系的に理解できる内容であり、カーボンニュートラル経営を目指す会員企業の皆様にとっても、大変有益なものとなりました。

上田先生が携わっておられる企業、株式会社イノカ様（左）、一般社団法人ブルーネクサス・ヨロン（右）のHPはこちら▶



7月25日（土）：鳳講の船渡御奉納戦に乗船

今年度も日本三大祭りの一つ、天神祭のフィナーレを飾る船渡御の奉納戦鳳講の船に、振興会会員・機構研究員・会員関係者の皆様が乗船し、歴史ある天神祭を堪能しました。

鳳講はご神霊を祀る講の一つで格式があり、乗船の機械は貴重なものです。

船と船がすれ違うたびに「大阪締め」を行い、特に「関大丸」とすれ違う際は、互いの船から声を掛け合うなどして大いに盛り上がりました。



<アンケートのご回答>

今年度も研究会について、会員の要望を把握し今後の研究会運営に反映するため、アンケートを実施いたします。

この度の第2回研究会の内容について、皆様より「大変参考になった」「参考になった」との多くの回答をいただきました。関心のある技術分野については「環境・エネルギー」「素材・材料」が多数ございました。知りたい情報については「研究者の研究内容・専門分野」「実用化が期待できる研究成果」との回答が多く見られました。その他として「土曜日の方が都合がよい」「参加者は平日の方が集まるのか？先生が講演しやすいのか？」との意見がございました。

これらの結果を今後の研究会活動に反映するよう努めてまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。